

今まで「福祉の吹田」と呼ばれたが…

うです。そんな中で市民の声が届きにくくなり、福祉が切り捨てられていく傾向が出てきています。障がい者にとっては「ちよつとずつ首を絞められているような」状況でした。このままでは障がい者も家族も施設職員も干上がってしまう、という危機感があつたからでしょう。

障がい者への福祉 他市なみに後退が心配

有田 吹田市は今まで「福祉の吹田」と呼ばれるほど、他市に先駆けて制度を充実させてきたのですが、ここへ来て現市長が「ゼロクリア大作戦」を言い出しました。昭和の時代、20年前に作った制度を、いったんすべて廃止してゼロから見直す、というものです。障がい者への福祉施策が、他市なみに後退しなにか心配です。

大型開発推進で福祉は削減？ クリアする順番が違う

有田 弱い立場の障がい者や高齢者、子どもへの施策を見直す一方で、吹田のあちこちで大型開発を行っている。多額の税金を投入しようとしている。駅前再開発はどうなのか？万博にガンバ球場を誘致しようとしていたり、ワールドカップに名乗りを上げたり、吹田操車場の跡地開発に莫大な資金を注入したりしています。「クリアする順番が違う」と思いますね。



有田 八郎さん

の流れに逆行するようなことでは困りますね。最後に、読者のみなさんにメッセージをどうぞ。

「福祉の原点」に たちもどってほしい

金沢 今の鳩山政権、大丈夫かなど不安を感じながらも、障がいを持つ当事者が入ったなかで、「自立支援」法に代わる新しい法律が準備されています。介護保険でもそうですが、根本問題は「契約」なのです。私たち利用者はいろんな制度がある中で民間業者と「契約」して、利用する。契約できるお金のある人はいいいけど、ない人はどうなるの？という疑問は解決していません。

高齢者や障がい者を地域で支

援する態勢を作らねばなりません。そのためには民間業者ではなく、行政が核になるべきです。福祉サービスが後退したこと、不況などで孤独死も増えています。「応益負担」があるので、医療にかかれぬ人も増えているのです。吹田市も大阪府も、もう一度「福祉の原点」に立ち戻ってほしいと思います。

高齢化が進みバリアフリー 求められるのに

馬垣 外国で、教会の様々な慈善事業を見かけます。礼拝では、障がい者が聖歌の伴奏をしてそこで収入を得られるようになっていたり、ホームレスの人々に炊き出しをしたりという場面に会ったときに、平等に愛を受けられるまじというイメージがわいてきます。

逆に日本の神社仏閣は、山の上にあたり急な階段を上らないとたどり着けないところにある場合が多いです。つまり元氣な人努力できる人や、お供えをたくさんした人たちが、「福德」を授か

るといイメージ。もしかしたら日本人の中に、そんなDNAがあるのかな？30年近く障がい者運動をやっていると、ふとそんなことを感じてしまいます。

そんな日本にあって、障がい者福祉は、総合行政と位置づけて、行政全体で、責任を持って充実させるべきです。

例えば公営住宅にしても、高齢化が進みバリアフリーが求められているのに、いまだにエレベーターがないところが多い。粗っぽい提案ですが、30年前に「団地やマンションでは最低10〜20%はエレベーター設置部分を設けなければならぬ」という条例を作っていたら、公営住宅はいまでも立派に機能していたはず。実は私たちがずっと前から求めてきたことなんです。でも行政は聞くだけ。

例えば阪急吹田駅がようやくバリアフリーになりますが、大変遅い対応だと言わざるを得ない。行政の担当者はその都度、人事異動で代わられるし、私たちの声や要望を引き継いでいただいでい



ると思えない。「市民参画」と言われるのなら、こうした声を真摯に受け止めて市政に反映してほしいと思います。

市民生活の現場で 困っている人々の声を

有田 本当にそうですね。大阪府も吹田市も、口を開けば「予算がない」。でも障がい者や子育てなどの予算を一方的に削ることは、人権問題です。机の上で予算書をいじくっているのではなく、市民生活の現場へ出て、もつと困っている人々の声を拾っていただくことから始めないとダメですよ。

本日はどうもありがとうございました。



裁判での「勝利和解」を前に、報告する金沢さん

「ゼロクリア大作戦」は福祉切り捨て作戦